

監 第 136 号  
平成31年3月1日

関係者各位

総 務 部 長  
(公印省略)

「平成31年3月から適用する公共工事設計労務単価について」等の  
運用に係る取扱いについて

今般、国土交通省土地・建設産業局長より平成31年2月22日付国土  
入企第55号「技能労働者への適切な賃金水準の確保について」の通知を  
受けて、本市が発注する工事及び委託業務においても、国・県の取り組み  
の趣旨に則り、本年3月1日より平成31年3月から適用する公共工事設  
計労務単価及び平成31年度設計業務委託等技術者単価（以下、「新労務  
単価等」という。）を適用したところであり、新労務単価等の上昇に伴う、  
インフレスライド条項の適用等については、下記のとおり取扱うこととし  
ましたので、お知らせいたします。

#### 記

##### 1. インフレスライド条項の適用について

平成31年2月28日以前に契約締結した工事のうち、別添1「賃金等  
の変動に対する白山市建設工事標準請負契約約款第25条第6項の運用  
について」に定める適用対象工事については、当該スライド条項を運用し  
ます。

##### 2. 新労務単価等の運用に係る特例措置について

平成31年3月1日以降に契約を締結する工事又は業務のうち、旧労務  
単価を適用して予定価格を積算した契約について、受注者は、契約約款に  
基づく契約金額の変更の協議を請求できるものとします。

事務担当 総務部監理課検査係 TEL076-274-9513 内線 4212
--

(別添1)

賃金等の変動に対する白山市建設工事標準請負契約約款第25条第6項の運用について

#### 1. 適用対象工事

- (1) 約款第25条第6項の請求は、2.(3)に定める残工期が2.(2)に定める基準日から2ヶ月以上あること。
- (2) 発注者及び受注者によるスライドの適用対象工事の確認時期は、賃金水準の変更がなされた時とする。

#### 2. 請求日及び基準日等について

請求日及び基準日等の定義は、以下のとおりとする。

- (1) 請求日：スライド変更の可能性があるため、発注者又は受注者が請負代金額の変更協議（以下「スライド協議」という。）を請求した日とする。
- (2) 基準日：請求があった日から起算して、14日以内で発注者と受注者とが協議して定める日とし、請求日とすることを基本とする。
- (3) 残工期：基準日以降の工事期間とする。

#### 3. スライド協議の請求

発注者又は受注者からのスライド協議の請求は、書面により行うこととし、その期間は直近の賃金水準の変更から、次の賃金水準の変更がなされるまでとする。

#### 4. 請負代金額の変更

- (1) 賃金水準又は物価水準の変更による請負代金額の変更金額（以下「スライド額」という。）は、当該工事に係る変動額のうち請負代金額から基準日における出来形部分に相応する請負代金額を控除した額の100分の1に相当する金額を超える金額とする。
- (2) 増額スライド額については、次式により行う。

$$S_{\text{増}} = [P_2 - P_1 - (P_1 \times 1 / 100)]$$

この式において $S_{\text{増}}$ 、 $P_1$ 、 $P_2$ は、それぞれ次の額を表すものとする。

$S_{\text{増}}$ ：増額スライド額

$P_1$ ：請負代金額から基準日における出来形部分に相応する請負代金額を控除した額

$P_2$ ：変動後（基準日）の賃金又は物価を基礎として算出した $P_1$ に相当する額

( $P = \sum (\alpha \times Z)$ )、 $\alpha$ ：請負比率（落札率）、 $Z$ ：官積算額)

(3) 減額スライド額については、次式により行う。

$$S_{\text{減}} = [P_2 - P_1 + (P_1 \times 1 / 100)]$$

この式において  $S_{\text{減}}$ 、 $P_1$ 、 $P_2$  は、それぞれ次の額を表すものとする。

$S_{\text{減}}$ ：減額スライド額

$P_1$ ：請負代金額から基準日における出来形部分に相応する請負代金額を控除した額

$P_2$ ：変動後（基準日）の賃金又は物価を基礎として算出した  $P_1$  に相当する額

( $P = \Sigma (\alpha \times Z)$ 、 $\alpha$ ：請負比率（落札率）、 $Z$ ：官積算額)

(4) スライド額は、労務単価、材料単価、機械器具損料並びにこれに伴う共通仮設費、現場管理費及び一般管理費等の変更について行われるものであり、歩掛の変更については考慮するものではない。

## 5. 残工事量の算定

(1) 基準日における残工事量を算定するために行う出来形数量の確認は、数量総括表に対応して出来形確認を行うものとする。

(2) 基準日までに変更契約を行っていないが先行指示されている設計量についても、基準日以降の残工事量についてはスライド対象とすること。

(3) 現場搬入材料については、認定したものは出来高数量として取り扱うこと。また、下記材料等についても出来形数量として取り扱う。

- ・工場製作品については、工場での確認又はミルシート等で在庫確保が証明できる材料は出来形数量として取り扱う。

- ・基準日以前に配置済みの現地据付型の建設機械及び仮設材料等（仮設用クレーン、仮設鋼材など）も出来形数量として取り扱う。

- ・契約書にて工事材料契約の完了が確認でき、近隣のストックヤード等で在庫確認が可能な材料は出来形数量として取り扱う。

(4) 数量総括表で一式明示した仮設工についても出来形数量の対象とできる。

(5) 出来形数量の計上方法については、発注者側に換算数量がない場合は、受注者側の当該工種に対する構成比率により出来形数量を算出してもよい。

(6) 受注者の責めに帰すべき事由により遅延していると認められる工事量は、増額のスライドの場合は、出来形部分に含めるものとし、減額スライドの場合は、出来形部分に含めないものとする。

## 6. 物価指数

発注者は、積算に使用する単価を用いた変動率を物価指数とすることを基本とする。なお、受注者の協議資料等に基づき双方で合意した場合は別

途の物価指数を用いることができる。

#### 7. 変更契約の時期

スライド額に係る契約変更は、精算変更時点で行うことができる。

#### 8. 全体スライド及び単品スライド条項の併用

- (1) 約款第25条第1項から第4項までに規定する全体スライド条項に基づく請負代金額の変更を実施した後であっても、本通達によるスライドを請求することができる。
- (2) 本通達に基づき請負代金額の変更を実施した後であっても、約款第25条第5項に規定する単品スライド条項に基づく請負代金額の変更を請求することができる。